

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷晋) (中央農業改良普及センター 菊田敏史、木村龍人)	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率	目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率			
桑名市	桑名市	R3	ニホンザル イノシシ ニホンジカ	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣: 220頭 イノシシ成獣: 54頭、幼獣6頭	桑名市	-	-	捕獲活動を積極的に取り組んだ結果、被害の軽減ができた。	ニホンジカ 402	ニホンジカ 78	ニホンジカ 288.4%	ニホンジカ 1.14	ニホンジカ 0.26	ニホンジカ 279.6%	捕獲活動の結果、イノシシの捕獲頭数が極端に減っており、被害防止に効果があつた。 今後も、侵入防止柵やサルに対する追い払いを中心とした地域での対策と、地元猟友会と市職員による捕獲活動といった2本柱での対策を進めていく。	目標値を上回る成果が出ており、今後もさらなる被害軽減を実現されることを期待します。 中型動物対策として、「楽落くん」ベースの侵入防止柵の効果が高いため、啓発や導入支援等を検討されることを提案します。	継続的に捕獲・駆除を行っていただいているところが評価できます。 ニホンザルによる果樹被害が多く報告されているようですので、今後も引き続き、集落ぐるみでの対策を実施し、被害の軽減を図ってください。
		R4	ニホンザル イノシシ ニホンジカ	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣: 97頭 イノシシ成獣: 19頭、幼獣17頭 ニホンザル成獣: 1頭		-	-	ニホンジカ 4,886	イノシシ 1,806	イノシシ 247.1%	イノシシ 10.38	イノシシ 5.88	イノシシ 201.1%				
		R5	ニホンザル イノシシ ニホンジカ	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣: 64頭 イノシシ成獣: 17頭、幼獣6頭		-	-	ニホンザル 4,324	ニホンザル 2,249	ニホンザル 212.0%	ニホンザル 7.61	ニホンザル 6.31	ニホンザル 139.9%				
									計9,612	計4,133	計233.0%	計19.13	計12.45	計181.4%				

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷晋) (中央農業改良普及センター 菊田 史、本村健人)	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)				
										目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率	目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率		
いなべ市	いなべ市	R3	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシ	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣460頭(うちシビエ104頭) ニホンジカ幼獣16頭 イノシシ成獣35頭 イノシシ幼獣11頭 ニホンザル成獣71頭 ニホンザル幼獣32頭	いなべ市	-	-	緊急捕獲活動により個体数調整を進めたことにより、被害を軽減することができた。	ニホンザル 1,030	ニホンザル 208	ニホンザル -70.5%	ニホンザル 1.43	ニホンザル 0.55	ニホンザル -266.7%	捕獲器材の導入や研修会等による追払いや捕獲駆除の担い手育成、獣の捕獲駆除の促進を行った。サル被害は、獣害パトロール員による追払いや集落による地域ぐるみの追払いを効果的に実施できる体制づくりを行った。また、侵入防止柵の整備を行い、被害の軽減に努めた。これらの取組により、被害金額の目標を達成することができた。引き続き、地域住民の連携が獣害対策の基本であるため、追払い、捕獲駆除等被害防止対策の取組みを促進する。なお、目標値が基準値より大きい理由は、基準値に用いる令和元年度の被害額・面積が特異的に小さかったことによるものである。特異的に低かった令和元年度を基準値として被害減の目標を立てることは非現実的と考えたため、過去3か年平均(平成28~30年平均)を基準値として10%減の目標とした。	捕獲器材の追加導入や研修会の開催等により、継続的に被害防止対策を行っていただいているところは評価できます。ニホンジカの被害が増加した要因を分析し、被害が拡大した地域に必要な対策を進め、計画的に被害軽減を図ってほしい。
		R4	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシ	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣567頭(うちシビエ154頭) ニホンジカ幼獣29頭 イノシシ成獣24頭 イノシシ幼獣4頭 ニホンザル成獣63頭 ニホンザル幼獣18頭	いなべ市	-	-	緊急捕獲活動により個体数調整を進めたことにより、被害を軽減することができた。	ニホンジカ 656	ニホンジカ 5,525	ニホンジカ 1,127.2%	ニホンジカ 2.45	ニホンジカ 29.46	ニホンジカ 1,430.5%		
		R5	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシ	緊急捕獲事業 緊急捕獲(シカ対策)	ニホンジカ成獣452頭(うちシビエ38頭) ニホンジカ幼獣7頭 イノシシ成獣27頭 イノシシ幼獣15頭 ニホンザル成獣84頭 ニホンザル幼獣21頭 ニホンジカ(成獣)229頭(うちシビエ50頭) ニホンジカ(幼獣)12頭	いなべ市	-	-	緊急捕獲活動により個体数調整を進めたことにより、被害を軽減することができた。	イノシシ 6,050	イノシシ 909	イノシシ -72.4%	イノシシ 9.14	イノシシ 3.56	イノシシ -4.5%		
									計7,736	計6,642	計72.2%	計13.02	計33.57	計370%			

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷晋) (中央農業改良普及センター 菊田 史、木村健人)	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)				
										目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率	目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率		
いなべ市鳥獣害防止対策協議会	いなべ市	R3	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシ	侵入防止柵 上段:電気柵(4段) 下段:WM柵(H:1.8m・W:2.0m)	L:1,100m	いなべ市鳥獣害防止対策協議会	R3	100%	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシの被害が軽減した。侵入防止柵の設置により集落ぐるみの獣害対策活動が活発になった。	ニホンザル 1,030	ニホンザル 208	ニホンザル -70.5%	ニホンザル 1.43	ニホンザル 0.55	ニホンザル -266.7%	捕獲器材の導入や研修会等による追払いや捕獲駆除の担い手育成、獣の捕獲駆除の促進を行った。サルは、獣害パトロール員による追払いや集落による地域ぐるみの追払いを効果的に実施できる体制づくりを行った。また、侵入防止柵の整備を行い、被害の軽減に努めた。これらの取組により、被害金額の目標を達成することができた。引き続き、地域住民の連携が獣害対策の基本であるため、追払い、捕獲駆除等被害防止対策の取組みを促進する。なお、目標値が基準値より大きい理由は、基準値に用いる令和元年度の被害額・面積が特異的に小さかったことによるものである。特異的に低かった令和元年度を基準値として被害減の目標を立てることは非現実的と考えたため、過去3か年平均(平成28~30年平均)を基準値として10%減の目標とした。	捕獲器材の追加導入や研修会の開催等により、継続的に被害防止対策を行っていただいているところは評価できます。ニホンジカの被害が増加した要因を分析し、被害が拡大した地域に必要な対策を進め、計画的に被害軽減を図ってほしい。
				侵入防止柵 上段:電気柵(4段) 下段:WM柵(H:1.8m・W:2.0m)	L:1,500m	いなべ市鳥獣害防止対策協議会	R5	100%	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシの被害が軽減した。侵入防止柵の設置により集落ぐるみの獣害対策活動が活発になった。	ニホンザル 6,050	ニホンザル 909	ニホンザル -72.4%	ニホンザル 9.14	ニホンザル 3.56	ニホンザル -4.5%		
		サル用移動式組立大型柵(6m×6m)遠隔監視操作システム	一式	いなべ市鳥獣害防止対策協議会	-	-	被害が甚大な集落からの要望により、市実施隊による個体数調整を行い被害軽減に努めた。	計7,736	計6,642	計72.2%	計13.02	計33.57	計370%				

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 (ハート事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷秀) (中央農業改良普及センター 菊田 史、本村龍人)	都道府県の評価							
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					事業実施主体の評価						
										目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率	目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率									
四日市市鳥獣被害防止総合対策事業推進協議会	四日市市	R2	ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ	有害捕獲	シカ・イノシシ用捕獲檻の購入2基	四日市市鳥獣被害防止総合対策事業推進協議会	-	-	捕獲檻の購入により、効果的な捕獲活動の実施が図られた。	ニホンザル426	ニホンザル669	ニホンザル3.6%	ニホンザル0.7	ニホンザル1.05	ニホンザル14.6%	昨年度の目標年度時点では、捕獲檻の導入や、侵入防止柵の設置により、被害の大きな圃場の被害防止を防いだものの、侵入防止柵未整備圃場における高収益作物へのニホンジカの食害が増加したこととニホンザルの捕獲数が低調となったことが原因となり、目標達成に至らなかった。 このことから、改善計画を実施するため、四日市市鳥獣被害防止総合対策推進協議会等の関係機関との連携を強化し、捕獲体制の強化を図った。	今後も侵入防止柵の整備や有害獣の捕獲推進によりさらなる被害軽減が進展することを期待します。 ニホンザルについては、捕獲頭数が低調となった原因の解明やその対策が必要と思われるので、専門家等に相談し、捕獲技術の改良を図ってください。							
				緊急捕獲事業	ニホンジカ:91頭 イノシシ:233頭 ニホンザル:3頭		-	-		ニホンジカ338	ニホンジカ391	ニホンジカ56.2%	ニホンジカ0.34	ニホンジカ0.25	ニホンジカ228.6%									
		R3	ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ	有害捕獲	シカ・イノシシ用捕獲檻の購入2基	四日市市鳥獣被害防止総合対策事業推進協議会	-	-		捕獲檻の購入により、効果的な捕獲活動の実施が図られた。また、侵入防止柵の設置により、被害の減少を図ることができた。	計1,348	計	計	計	計			計	計					
				侵入防止柵	ワイヤーメッシュ幅(H=1.8m) L=3,050m L=1,560m		R3	100%												1,623	43.6%	1.65	1.80	73.7%
				緊急捕獲事業	ニホンジカ:33頭 イノシシ:85頭 ニホンザル:5頭		-	-																
		R4	ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ	有害捕獲	シカ・イノシシ用捕獲檻の購入2基	四日市市鳥獣被害防止総合対策事業推進協議会	-	-		捕獲檻の購入により、効果的な捕獲活動の実施が図られた。また、侵入防止柵の設置により、被害の減少を図ることができた。	計	計	計	計	計			計	計					
	侵入防止柵			ワイヤーメッシュ幅(H=1.8m) L=2,460m	R4		100%																	
	緊急捕獲事業			ニホンジカ:40頭 イノシシ:190頭 ニホンザル:14頭	-		-																	
	R5	ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ	有害捕獲	シカ・イノシシ用捕獲檻の購入2基 電気止め刺し器2個	四日市市鳥獣被害防止総合対策事業推進協議会	-	-	捕獲檻の購入により、効果的な捕獲活動の実施が図られた。また、侵入防止柵の設置を行い、置後間もないため、被害の把握は難しいが設置後の被害は確認されていない。加えて、先進地視察によって効果的な追い払いや防除活動の知識を得ることができた。	計	計	計	計	計	計	計									
			先進地視察	先進地視察(伊賀市阿波地区)		-	-																	
			侵入防止柵	ワイヤーメッシュ幅(H=1.8m) L=4,050m		R5	100%																	
			緊急捕獲事業	ニホンジカ:36頭 イノシシ:152頭 ニホンザル:19頭		-	-																	

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 (ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷秀) (中央農業改良普及センター 菊野敏史、木村健人)	都道府県の評価	
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					事業実施主体の評価
										目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率	目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率			
亀山市鳥獣被害防止対策推進協議会	亀山市	R2	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ヌートリア、ハクビシン	有害捕獲	箱わな(大型):5基 箱わな(中型):5基	亀山市鳥獣被害防止対策推進協議会	-	-	4カ年、ニホンザル維持情報システムを活用し、ニホンザルの位置情報を配信することで、農産物被害を抑制することができた。併せて、サルの追払い研修会を開催し、集落の獣害対策に取り組む意識向上を図ることができた。 R2からイノシシ保管用冷蔵庫を導入し、焼却までの間、低温保管することにより、適正に焼却処理している。 R3に侵入防止柵を整備した結果、ニホンジカ・イノシシによる農作物被害を防止した。 R4及びR5に長距離無線式捕獲パトロールシステムを導入した結果、檻の管理負担が軽減され、有害鳥獣の効率的な捕獲につながった。	ニホンジカ 2,311	ニホンジカ 3,028	ニホンジカ 27.6%	ニホンジカ 1.85	ニホンジカ 2.80	ニホンジカ -20.3%	ICTの導入により、猟友会が効率的に有害鳥獣を捕獲できるようになった。また、地域において侵入防護柵の設置や追い払いが進んでいる。 R5年度におけるニホンジカ・イノシシの被害面積・被害量は、前年度比で減少したものの、水稲単価の高騰により被害金額は増加した。 ニホンザルの対策強化に努め、R5年度における捕獲数は前年度比で倍増したが、市街地に出没する群れの影響により、被害金額・被害面積は微増した。 R5年度におけるアライグマ等の捕獲数は前年度比で増加しており、生息数が増加しており、被害金額は増加した。	ニホンザルについては、群情報に基づく対策を進められており、近いうちに成果が出ることを期待しています。 ニホンジカ、イノシシについては侵入防止柵を整備した地区では成果が出ていることから、今後も被害発生地区で侵入防止柵整備を中心に有効な対策が進展することを期待します。	継続的に捕獲・駆除を行っているところが評価できます。 侵入防止柵の設置地区においては、柵の維持管理の体制づくり等、効果継続に繋がってください。 ニホンザルについての対策も今後、成果が出ることを期待しています。
				被害防除	ニホンザル位置情報システム運営 研修会実施:7回		-	-		ニホンザル 1,119	ニホンザル 2,097	ニホンザル -104.2%	ニホンザル 0.26	ニホンザル 0.50	ニホンザル -118.2%			
				整備事業	冷蔵庫(イノシシ保管用):1式		R3	100%		アライグマ、 ヌートリア、 ハクビシン 67	アライグマ、 ヌートリア、 ハクビシン 175	アライグマ、 ヌートリア、 ハクビシン -272.4%	アライグマ、 ヌートリア、 ハクビシン 0.08	アライグマ、 ヌートリア、 ハクビシン 0.08	アライグマ、 ヌートリア、 ハクビシン 100.0%			
		R3	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ヌートリア、ハクビシン	有害捕獲	箱わな(大型):6基		-	-		計 4,488	計 6,347	計 3.2%	計 2,99	計 4.34	計 -7.1%			
				被害防除	ニホンザル位置情報システム運営 研修会実施:3回		-	-										
				侵入防止柵	整備延長:774m		R4	100%										
		R4	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ヌートリア、ハクビシン	有害捕獲	長距離無線式捕獲パトロールシステム導入:1式		-	-										
				被害防除	ニホンザル位置情報システム運営 研修会実施:3回		-	-										
		R5	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ヌートリア、ハクビシン	有害捕獲	長距離無線式捕獲パトロールシステム導入:1式 ICTを用いた檻・檻の遠隔監視・操作システム導入:1台		-	-										
				被害防除	ニホンザル位置情報システム運営 研修会実施:3回		-	-										

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 (ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見 (農研研究所 長谷川弘樹、梶谷晋) (中央農業改良普及センター 苑田敬史、木村龍人)	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率	目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率			
菟野町鳥獣害防止総合対策協議会	菟野町	R3	イノシシ・シカ・サル	有害捕獲	捕獲機連絡通知システム・子機 20台	菟野町鳥獣害防止総合対策協議会	-	-	大きかったため、R4にも設置箇所を増やしている。 R5については、シカの捕獲数が増加したものの、被害状況も悪化している。目撃情報も増えてきていることから、捕獲数のさらなる増加を目指す。									
					狩猟免許取得支援: 3名		-	-										
					サル用大型捕獲機: 1基		-	-										
		緊急捕獲	シカ(成獣): 475頭、イノシシ(成獣): 101頭、イノシシ(幼獣): 17頭、サル(成獣): 45頭、サル(幼獣): 1頭	-	-													
			有害捕獲	捕獲機連絡通知システム・子機 20台	-		-											
				狩猟免許取得支援: 3名	-		-											
	大型捕獲機捕獲システム: 1式	-		-														
	緊急捕獲	シカ(成獣): 410頭、シカ(幼獣): 15頭、イノシシ(成獣): 82頭、イノシシ(幼獣): 9頭、サル(成獣): 30頭	-	-														
		R5	イノシシ・シカ・サル	有害捕獲	捕獲機連絡通知システム・子機 20台	-	-											
					狩猟免許取得支援: 9名	-	-											
	イノシシ・シカ用捕獲機: 7基				-	-												
	緊急捕獲	シカ(成獣): 318頭、シカ(幼獣): 22頭、イノシシ(成獣): 111頭、イノシシ(幼獣): 8頭、サル(成獣): 39頭	-	-														
緊急捕獲(シカ対策)		シカ(成獣): 198頭	-	-														

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷洋 (中央農業改良普及センター 菊野 史、木村龍人)	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率	目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率			
多気町	多気町	R3	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル	緊急捕獲事業	ニホンザル成獣:7頭 ニホンジカ成獣:185頭 イノシシ成獣:58頭	多気町	-	-	侵入防止柵の設置、周辺での捕獲を行い被害防止に繋がった。R4年度よりイノシシについて、幼獣の捕獲も補助金の対象としたため幼獣の項目を追加した。	ニホンジカ 274	ニホンジカ 3,775	ニホンジカ -24907.1%	ニホンジカ 0.18	ニホンジカ 0.86	ニホンジカ -6700%	侵入防止柵の設置により有害鳥獣への対策を行い被害の軽減に努めてきた。イノシシ、サル、シカのいずれも増加傾向にあり、特にR4年度以降は、サル被害に対して高収益作物への被害や住宅街への出没、生息域の変化など、より被害が増加しており、捕獲強化をしていかなければならない。	ニホンジカ、イノシシについては侵入防止柵の整備、維持管理を中心に有害鳥獣の捕獲、餌資源の除去等の取組を進めてください。ニホンザルについては、専門家の知見を活用し、計画的な調査、調査結果に基づく管理計画の策定、適切な捕獲技術の実践を進めてください。	被害が拡大している地域については、侵入防止柵の整備や捕獲を進めること等、対策を進めることにより被害の軽減が進むことを期待しています。また、ニホンザルについては、関係機関と協力し、必要な調査や対策等、計画的に実施してください。
					R4					ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル	緊急捕獲事業	ニホンザル成獣:7頭、幼獣1頭 ニホンジカ成獣:216頭、幼獣7頭 イノシシ成獣:97頭、幼獣25頭	多気町	-	-			
		R5	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル	緊急捕獲事業	ニホンザル成獣:7頭 ニホンジカ成獣:178頭、幼獣26頭 イノシシ成獣:40頭、幼獣67頭	多気町	-	-		計 5925	計 13,997	計 -2495.5%	計 12.59	計 3.23	計 1518.2%			
					緊急捕獲(シカ対策)					ニホンジカ(成獣)18頭 ニホンジカ(幼獣)1頭	多気町	-	-					
多気町鳥獣害防止総合対策協議会	多気町	R3	イノシシ、シカ、ニホンザル	侵入防止柵	WM柵:4583m	多気町	R3	100%	侵入防止柵の設置、周辺での捕獲を行い被害防止に繋がった。また、侵入防止柵を設置した地区には柵の管理を委託し、地区における獣害対策意識の向上が図られた。	ニホンジカ 274	ニホンジカ 3,775	ニホンジカ -24907.1%	ニホンジカ 0.18	ニホンジカ 0.86	ニホンジカ -6700%	侵入防止柵の設置により有害鳥獣への対策を行い被害の軽減に努めてきた。イノシシ、サル、シカのいずれも増加傾向にある。侵入防止柵の設置推進と捕獲強化をしていかなければいけない。	ニホンジカ、イノシシについては侵入防止柵の整備、維持管理を中心に有害鳥獣の捕獲、餌資源の除去等の取組を進めてください。ニホンザルについては、専門家の知見を活用し、計画的な調査、調査結果に基づく管理計画の策定、適切な捕獲技術の実践を進めてください。	被害が拡大している地域については、侵入防止柵の整備や捕獲を進めること等、対策を進めることにより被害の軽減が進むことを期待しています。また、ニホンザルについては、関係機関と協力し、必要な調査や対策等、計画的に実施してください。
		R4	イノシシ、シカ、ニホンザル	侵入防止柵	WM柵:470m	多気町	R4	100%		計 5925	計 13,997	計 -2495.5%	計 12.59	計 3.23	計 1518.2%			
		R5	イノシシ、シカ、ニホンザル	侵入防止柵	WM柵:1970m	多気町	R5	100%										

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハート事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷洋) (中央農業改良普及センター 苑田敏史、本村健人)	都道府県の評価										
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					事業実施主体の評価									
										目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率	目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率												
明和町鳥獣被害防止対策協議会	明和町	R3	イノシシ	緊急捕獲事業	イノシシ6頭	明和町鳥獣被害防止対策協議会	-	-	被害作物としては、水稲が主だが、野菜・果樹などの作物の被害も出ている。鳥獣の種類は、イノシシのほかニカラスやハクビシン等の被害も目立っているが、緊急捕獲事業による有害鳥獣駆除を行い、被害が軽減されている。	イノシシ 1,096 計 1,096	イノシシ 27.6 計 27.6	イノシシ 1,942.1% 計 1513.7%	イノシシ 3.62 計 3.62	イノシシ 0.024 計 0.024	イノシシ 1,898% 計 1,898%	緊急捕獲事業による有害駆除を行うことにより、イノシシの被害の軽減につながった。今後も、駆除従事者の確保のため、狩猟資格を有し専門的知識と捕獲技術を持つ者を育成し、捕獲強化を図るとともに、耕作放棄地の解消に向けた取組により、農作物への被害の軽減を図る。	被害金額を大きく減少されており、有害鳥獣の捕獲効果が表れていると思います。今後も有害鳥獣の捕獲を継続するとともに、侵入防止柵の整備や餌資源の除去等の被害対策も推進し、さらなる被害軽減を実現されることを期待します。	被害金額、被害面積ともに大きく減少されており、有害鳥獣の捕獲効果が表れていると思います。今後も捕獲とともに必要な地域への侵入防止柵の整備等、被害対策を推進していただくことを期待します。									
志摩市	志摩市	R3	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・アライグマ・タヌキ・ハクビシン	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣320頭、ニホンジカ(成獣)(食用)60頭、イノシシ成獣740頭、幼獣150頭、ニホンザル0頭、その他獣種52頭	-	-	緊急捕獲事業により、個体数調整を進めることができた。	ニホンジカ 198 イノシシ 18,004 ニホンザル 836 アライグマ 57 タヌキ 57 ハクビシン 57 計 19,209	ニホンジカ 236 イノシシ 4,387 ニホンザル 0 アライグマ 0 タヌキ 0 ハクビシン 120 計 4,743	ニホンジカ 0% イノシシ 402.5% ニホンザル 0% アライグマ 0% タヌキ 0% ハクビシン 0% 計 421.3%	ニホンジカ 0.20 イノシシ 6.88 ニホンザル 0.36 アライグマ 0.01 タヌキ 0.01 ハクビシン 0.01 計 7.47	ニホンジカ 0.24 イノシシ 1.02 ニホンザル 0 アライグマ 0 タヌキ 0 ハクビシン 0.05 計 1.31	ニホンジカ 0% イノシシ 440.7% ニホンザル 0% アライグマ 0% タヌキ 0% ハクビシン 0% 計 458.1%	緊急捕獲事業による個体数調整を進めたことにより、被害金額及び被害面積の軽減につながった。	イノシシ、ニホンザルの被害金額を大きく減少させており、これまでの取組の成果が出ているものと思います。今後も侵入防止柵の整備、維持管理と有害鳥獣の捕獲を中心に取組み、さらなる被害軽減を実現されることを期待します。一方でハクビシンの被害が増加しているため、中型動物用侵入防止柵の啓発や普及の取組を検討されることを提案します。											
					R4				ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・アライグマ・タヌキ・ハクビシン	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣308頭、ニホンジカ(成獣)(食用)85頭、幼獣3頭、イノシシ成獣377頭、幼獣154頭、ニホンザル幼獣1頭、その他獣種182頭	-	-	緊急捕獲事業により、個体数調整を進めることができた。			ニホンザル 0 アライグマ 0 タヌキ 0 ハクビシン 0 計 0	ニホンザル 0% アライグマ 0% タヌキ 0% ハクビシン 0% 計 0%	ニホンザル 0 アライグマ 0 タヌキ 0 ハクビシン 0 計 0	ニホンザル 0% アライグマ 0% タヌキ 0% ハクビシン 0% 計 0%	ニホンザル 0 アライグマ 0 タヌキ 0 ハクビシン 0 計 0	ニホンザル 0% アライグマ 0% タヌキ 0% ハクビシン 0% 計 0%					
											R5												ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・アライグマ・タヌキ・ハクビシン	緊急捕獲事業	ニホンジカ成獣209頭、ニホンジカ(成獣)(食用)64頭、幼獣2頭、イノシシ成獣555頭、幼獣110頭、ニホンザル成獣1頭、その他獣種259頭	-	-

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						被害実施主体の評価	第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷亮) (中央農業改良普及センター 須藤 史、木村龍人)	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率	目標値(R5年)	実績値(R5年)	達成率			
志摩市有害鳥獣対策協議会	志摩市	R3	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・アライグマ・タヌキ・ハクビシン	イノシシ用捕獲檻購入 小動物用捕獲檻購入	一式	志摩市有害鳥獣対策協議会	-	-	捕獲檻の貸出により捕獲活動を効率的に実施でき、個体数調整を進めることができた。	ニホンジカ	ニホンジカ	ニホンジカ	ニホンジカ	ニホンジカ	ニホンジカ	捕獲機材の導入により、新たに狩猟免許を取得し、猟友会に所属し有害捕獲に取り組んでもらえる方に、購入した檻を貸し出すことができ、捕獲担い手の育成が図られ、有害捕獲頭数が増加した。また、貸出用捕獲檻を増やしたことやICT捕獲檻の導入により農家等からの獣害被害報告等への対応が効率的に行える。	イノシシ、ニホンザルの被害金額を大きく減少させており、これまでの取組の成果が出ているものと思います。今後も侵入防止柵の整備、維持管理と有害獣の捕獲を中心に取り組み、さらなる被害軽減を実現されることを期待します。一方でハクビシンの被害が増加しているため、中型動物用侵入防止柵の啓発や普及の取組を検討されることを提案します。	本事業を活用し、侵入防止柵と捕獲機材を導入し、獣害対策を進めてきた結果、被害軽減効果を発現しています。今後も捕獲とともに侵入防止柵の設置や適切な柵の維持管理等をすすめ、総合的な被害防止対策を推進していただくことを期待します。
										198	236	0%	0.20	0.24	0%			
										イノシシ	イノシシ	イノシシ	イノシシ	イノシシ	イノシシ			
										18,004	4,387	402.5%	6.88	1.02	440.7%			
										ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル			
836	0	0%	0.36	0	0%													
R3	イノシシ	侵入防止柵 柵種:WM柵 H=1.2m	L=16.323m	志摩市有害鳥獣対策協議会	R3	100%	侵入防止柵の設置により対象獣の被害が軽減できたため、農家の耕作意欲向上が確認できた。	アライグマ	アライグマ	アライグマ	アライグマ	アライグマ	アライグマ					
57	0	0%	0.01	0	0%													
タヌキ	タヌキ	タヌキ	タヌキ	タヌキ	タヌキ													
57	0	0%	0.01	0	0%													
R4	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・アライグマ・タヌキ・ハクビシン	イノシシ用捕獲檻購入 小動物用捕獲檻購入	一式	志摩市有害鳥獣対策協議会	-	-	捕獲檻の貸出により捕獲活動を効率的に実施でき、個体数調整を進めることができた。	ハクビシン	ハクビシン	ハクビシン	ハクビシン	ハクビシン	ハクビシン					
57	120	0%	0.01	0.05	0%													
計	計	計	計	計	計													
19,209	4,743	421.3%	7.47	1.31	458.1%													
R5	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・アライグマ・タヌキ・ハクビシン	イノシシ用捕獲檻購入 小動物用捕獲檻購入	一式	志摩市有害鳥獣対策協議会	-	-	捕獲檻の貸出により捕獲活動を効率的に実施でき、個体数調整を進めることができた。											

各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 (ハート事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						第三者の意見 (農業研究所 長谷川弘樹、梶谷晋) (中央農業改良普及センター 菊田史、木村龍人)	都道府県の評価	
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					事業実施主体の評価
										目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率	目標値 (R5年)	実績値 (R5年)	達成率			
三重県	三重県	R5	ニホンジカ、イノシシ	地域主体による有害動物の捕獲及び被害対策技術の実証	現地確認、消耗品費、捕獲器改良費、獣害発生状況データ整理に係る資金、ICT設備材料費、器わな管理費、器わな管理費、燃料費、電費、GIS保守				地域主体で被害対策を行うための、防護柵の効果的な補修・機能向上手法及び、その周辺で有害動物の捕獲を進めるための技術の実証を行うとともにその効果を検証できた。							ニホンジカ・イノシシ対策について、「集落柵の効果的な補強方法の解明」や「難防除箇所の侵入防止技術の開発」や「ICT大型捕獲檻によるニホンジカ捕獲に効果的なエサ管理技術の解明」などの実証を推進し、得られた成果を論文発表や研修会で報告を行って、現地への普及技術として活用し、被害軽減を図っていきたい。		
			ニホンジカ	被害防止のためのくくりわなによる効果的なニホンジカ捕獲方法の開発	現地調査、燃料費、センサーカメラ運搬費、くくりわな等消耗品、くくりわな運搬費				軽量で移動が容易であり、価格も比較的安くくくりわなによる捕獲方法について、農地に被害を及ぼすニホンジカを対象に効果的な捕獲の有効性を検証できた。							くくりわなによる捕獲について、ニホンジカ誘引餌の指向性調査の実施や、複数の捕獲通知システムの利用可能性、誤作動による捕獲個体の捕り逃がしを防止するための安定的に作動するくくりわなの検討を行い、検証した。その結果を活用し、効果的な捕獲の推進を図ってきたい。		
			ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル	「獣害につよい三重づくり研修会」「指導者育成講座」等による人材育成及び、優良活動表彰の実施	資料印刷費、研修会に係る講師謝金及び報酬費、優良活動表彰に係る審査委員謝金及び報酬費				県内の獣害対策関係者を対象とし、獣害対策の取組事例の報告等や獣害対策に取り組む集落の優良活動事例の表彰を実施し、獣害対策への意欲の向上や知識の取得を促すことができた。また県内市町担当者等を対象とした獣害対策講習会の開催や、県獣害対策担当者の研修参加により、獣害対策指導者の育成が図られた。						人材育成活動については、研修会開催を積極的に行い、地域における獣害対策指導者の育成、またフォーラムを開催し、講演会や企業展示などを進めている。			
			ニホンジカ、イノシシ	ジビエ利用拡大	販路拡大、普及啓発活動、新規販路開拓、商品開発、情報収集活動等				みえジビエのフォトキャンペーンや出前講座など一般消費者へ向けた積極的な普及啓発活動を行うことで、みえジビエの認知度向上、消費拡大につなげることができた。また、アウトドア企業へのプロモーションや首都圏で開催される食品見本市への出展等を実施したことで、新規販路を開拓した。							ジビエ利用拡大については、キャンペーン、イベント等のPR活動や事業者に向けた営業活動を行うことで、高品質なみえジビエの知名度向上、販路拡大が図られた。一方で、事業者の高齢化によって、みえジビエの解体処理頭数は減少している。今後は、みえジビエの関係事業者と連携し、安定的な供給体制を構築するとともに、新たな販売経路の開拓等を実施することで、更なる利用拡大を図ってきたい。		

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る

都道府県による総合的評価

県全体として、農業被害金額及び被害面積は今年度、増加傾向となった。集落ぐるみで取り組む獣害対策については一定程度は浸透してきているが、中山間地域では高齢化により、捕獲や柵の草刈りや補修等の維持管理を行うことが困難になっている地域も見受けられる。侵入防止柵を設置した地域の被害は無くなったが、今まで被害の無かった柵整備を行っていない地域での被害が出てきていることや、新たにニホンザルの群れができた地域、中型獣種の被害も各地域で増加傾向にあることから、今後も引き続き、市町と協力しながら地域の状況や、加害獣種に合わせたきめ細やかな対策を進展させていきたい。